

財政上其經濟上ニ於テ多大ノ変更ヲ来セルニ
拘ラズ協定税率ノ為多數輸入品ノ関稅ハ之ヲ
変更スルヲ得ス然ルニ該條約ハ明治四十三年
以後ハ何時ニテモ之ヲ終了スルノ通知ヲ發シ
得ヘキ約定ナルヲ以テ来ルヘキ條約改訂ニ際シ
テハ我國情ニ適應スル國定税率ヲ定メ我國
稅制度ヲ決定スルヲ要ス而シテ之カ調査ニハ
多クノ日子ヲ要スヘキヲ以テ今日ニ於テ之ニ
着手シ且事務ノ重複ヲ避クル為關係各省ヨ
リ委負ヲ出シ諸般関稅率ニ関スル調査ニ當ラ

シメタシト云フニアリ右ハ相當ノ儀ト思考ス依
テ清議ノ通閣議決定相成可然哉

指令案

關稅率調査ニ関スル件清議ノ通

スルニ付テハ



英米獨佛其他歐洲八箇國ト我國ト
 通商條約ハ實施後十二箇年ヲ以テ期
 限トシ十一箇年經過ノ後ハ何時ニテモ
 之ヲ終了スルノ通知ヲ發シ得ヘキ約定
 ナルヲ以テ佛國填甸國ニ對シテハ明治四
 十三年八月四日以後其他ハ同年七月
 十七日以後ニ於テ通知ヲ發シ其時ヨリ
 十二箇月後ニ於テ終了シ得ヘキモノナリ
 此現行條約ハ今ヨリ七年乃至十一

甲辰

七

年前ノ締結ニ係リ英獨佛三國ニ
對シ多數物品ニ稅率ヲ協定シ他
諸國ハ最惠國條款ノ適用ニ依リテ
協定稅ノ利益ヲ亨有スルモノニシテ爾
來我國ハ北清事變日露戰爭等
ヲ經過シ我財政ノ情況ニ多大ノ變
更ヲ來セルニ拘ラス多數輸入物品ノ
關稅ハ之ヲ變更スルヲ得サルノ不便ヲ
實驗ニ加之我農工業ノ狀態ハ過
去數年ニ於テ面目ヲ改メタルモノ甚カラ

サルニ依リ來ルヘキ通商條約ノ改訂ニ
際シテハ我關稅制度ニ種々ノ施設ヲ
要スルコト明白ニシテ前記ノ如ク我ヨリ
通知ヲ發シ得ルハ明治四十三年十
ルヲ以テ其以前ニ於テ我ニ於テ我國情ニ適應
スルノ國定稅率ヲ定メ我關稅制度
ヲ決定シ外國ニ對スル我ノ體度ヲモ一
定セサルハカラス而シテ關稅率ノ制定ハ
汎ク内外物品ノ生産消費ニ就キ調
査攻究ヲ為スヲ要シ多クノ日子ヲ費

スヘキヲ以テ今ニ於テ之ニ着手スルヲ要シ
猶ホ關係各省ノ間ニ於テ共同一致ヲ
圖リ事務ノ重複ヲ避クルハ該調査ノ
進捗上ニ利益ナルヲ以テ先ツ左記三
名ヲ關稅率調査委員ニ任命シ諸
般關稅率ニ關スル調査事務ニ
當ラシメ度右閣議ニ提出ス

明治三十八年十月五日

大藏大臣男爵曾禰荒助
内閣總理大臣伯爵桂太郎殿



外務省通商局長石井菊次郎
大藏省主稅局長若槻礼次郎
農商務省商工局長森田茂吉

